

第 30 期第 4 回仙台市図書館協議会会議録

- ◎ 会議の日時・場所 令和 3 年 11 月 5 日（金） 9 時 00 分～11 時 00 分
仙台市役所本庁舎 2 階 第 3 委員会室
- ◎ 出席委員の氏名 遠藤仁委員、渡邊千恵子委員、跡部裕史委員、
小林直之委員、杉山秀子委員、高橋由臣委員、
滝川真智子委員、根岸一成委員、堀多佳子委員、
真壁直人委員
- ◎ 事務局職員氏名 市民図書館長 樋口千恵、市民図書館副館長 柴田聡史、
広瀬図書館長 菊池雅人、宮城野図書館長 岡本幸代、
榴岡図書館長 柴田雅子、若林図書館長 山口宏、
太白図書館長 （兼）柴田聡史、泉図書館長 松島桂一、
市民図書館主幹兼奉仕整理係長 山田千恵美、
市民図書館企画運営係長 早坂江美子

◎ 会議の概要

1 開 会

2 挨拶

市民図書館長挨拶

会長挨拶

3 会議録署名委員指名

会長より根岸一成委員を指名。

4 協議事項

（１）「仙台市図書館振興計画 2022」中間案素案について

（市民図書館副館長 説明）

資料 1-1～1-3 にもとづき説明

- 議 長 ただいまの説明に関してお気づきの点があればご意見をお伺いしたい。どのようなことでも構わないので、各委員より自由に発言いただきたい。
- 跡部裕史委員 パスファインダーやレフェラルサービスなど、分かりにくい言葉に注釈をつけた方が良いのではないかと。辞書を使わなくても読めるように分かりやすくなると良い。
- 事務局 現行計画では脚注という形で付いており、最終的には付ける予定である。
- 跡部裕史委員 全体的に電子図書館について多くの項目に盛り込まれており、これから電子図書館がすごく重要になってくるというのが分かった。想像以上に時代が変化していく、そ

ういうスピードに対応していけるようにしてほしいと思う。

21 ページの「あらゆる人に使いやすい図書館サービス」はすごく重要で大切な考えだと思う。高齢者や障害者や外国人の方などに対する配慮というのは、デジタルの最先端への対応を充実させる一方で、そういうのが行き届かない人に救いの手を差し伸べる、そういう視点というのはすごく大事なので、その辺を充実してほしい。

外国人の方の利用は結構あるものなのか。

事務局
跡部裕史委員
事務局
跡部裕史委員
小林直之委員

市民図書館の場合、建物のご見学も含めて訪れる方は割と多い。

どんな国の方がいらっしゃるか。

東南アジアや中国の方、韓国の方が多い。

市内を見ても外国人の方がたくさんいるので、対応していただけると良い。

本文の書体に、視覚に障害のある方にも読みやすいと言われている書体であるUD (ユニバーサルデザイン) フォントが使われており、細かい配慮があるなど感激した。

全体については、これまで議論してきたことなので、特に加えることはない。4～5 ページの「図書館をめぐる主な計画や法整備の動き」の認識も、大変難しいところをしっかりと受け取っていると感じた。読書バリアフリー法が施行されて、これには必ず対応していくということが求められている。それから、著作権法の一部改正など新しいものが増えていく中で、いかにフレキシブルに対応していくかというところもこれから求められる。図書館のいい部分を守りつつ、より新しいことに取り組んでいくという気概に満ちた中間案だと思うので、これからも頑張っていただきたい。私もできることは協力していきたいと思う。

杉山秀子委員

中間案素案を読ませていただいて、地域の住民の方、学校、私たちのような保育関係と小さい子供たちに向けてと、あらゆるところに配慮された方策だと思った。

今、保育のほうでもかなりICT化が進んできているが、実際子供たちと話をするとき、紙媒体のもので伝えるというのは私たちの中では使命のようなどころもあり、生の声で伝えることの良さというのもあるので、方向性2の(5)「家庭・地域と連携して子供の創造性を育む読書活動」の中で、特に基本となる家庭の中での本の楽しみ方というところを、大いに進めていただきたいと思う。

また、子供図書室をよく利用するが、学校から図書館に配属された職員が、専門的な知識をいっぱい備えても、3年位経つとまた学校現場に戻ってしまう。もちろん学校の中でも子供たちに読書のすばらしさというのを伝えると思うが、利用している側からすると、あんなに専門的知識を持ったところで、また異動でいなくなってしまうというのが本当に残念である。27 ページの「図書館職員の専門性の向上」にもあったが、子供の発達段階だったり地域の方への課題というところで、そういう方たちがその専門性をもって図書館でいろいろ活動していただけたら、利用する側もとてもありがたいことだし、子供たちに向けてもすばらしい力を発揮していただけるのではないかな。そういう先生方が学校現場に戻られたときに、その力をもっと発揮できるような環境がより整えられるよう、図書館から何とか考えていただけたらと思った。

事務局

学校に戻ってから、図書館の大切さや、図書館では本を楽しむほか調べ学習に使え

るということを広めて欲しいと思うし、学校からきた職員だけではなくて、そのほかの職員たちもそういった技術を身につけながら図書館全体での底上げを図っていければと、今お話を伺っていて感じたところである。

議 長 前回も申し上げたが、読み聞かせとかブックトークとか、やはり基本的な技術といったものを、オンデマンド形式で基本的な研修が自分で進められるような仕組みがあると本当に共有ができるのかなど、今お話を伺っていて思った。

高橋由臣委員 会議、お話を重ねて、充実した内容と拝見させていただいた。

GIGA スクールが始まり、小学生も遠隔で授業というのも体験している。クロームブックを子供たちに1台持たせるという環境になっているが、学校でそういう整備が進むと、自宅でWi-Fiは必須というご家庭がほとんどになってきて、簡単にユーチューブなどを見ることができ、大人よりも子供のほうがコンピューターとか機械に慣れて、どんどん発達している分野だと思う。方向性2(4)「オンラインを活用した学校との連携」というところをもっと推し進めていくことが大切かと思った。

この冊子にあるようないろいろな取組を、子供のみならず市民の皆さんにもっと周知する方法というのは何かないものか。宣伝の方法は、今までとこれから先、何かにチャレンジ、変更するというところは何かあるものか。

事務局 学校と連携したオンラインの活用については、電子図書館の活用も含め、関係課や学校と連携しながら考えていかなければならないが、電子図書館の特性として、ライセンスの関係で基本的に同時に借りられるのが1コンテンツにつき1人というものが圧倒的に多く、集団で同じ本を同時に読むというのがなかなか難しい。そのため、例えば、そういった特性を踏まえながら、学校で先生方に様々な本をご紹介いただいて、興味を持ったお子さんがそれを電子書籍で読んでみるなどが考えられる。関係課や学校と様々な話し合いながら考えていきたいと思う。

宣伝の方法については、この協議会でも様々ご意見をいただいたが、例えばユーチューブでのイベントの周知、また、様々な図書館の使い方の配信など、オンラインを一層活用していきたい。図書館の利用者層として少ないのが、ヤングアダルト世代である。電子図書館の利用状況を見ると、ヤングアダルト世代向けの本が割合借りられているという状況なので、オンラインでこれまで利用しただけなかった層に図書館サービスをお届けするというのは有効だと考えている。オンラインを活用した宣伝の仕方というのも様々考えていきたい。

滝川真智子委員 この中間案素案、非常に分かりやすく、4つの方向性に対して施策とかが大変具体的で、利用する方々の視点で、書き方が温かく、本当に利用者のことを思っているんだなということが、読んでいて心地良い。読んでいて心にストンと落ちてくるし、作られた方の視点が利用者ファーストの温かいものだというのがよく分かると思った。

私も電子図書館を見て、大変魅力的で、私自身借りてみたい、見てみたいと思うし、とてもきれいで、高校生ぐらいまでの子どもたちは本当に見てみたいと思うのではないかな。学校で今後利用を考えていくときに、IDを入れなくても、例えば小学生の利

用はここからすぐ入れるみたいなのがあると分かりやすいかなと考えていた。

あと、SDGs ということで、図書館が時代とともにずっと大事な私たちの居場所となるということが、やはりいいんだろうなと思っていた。方向性1の「『書齋』としての機能」や「交流できる『広場』」というのは、まさにこれからのコンセプトになっていくのかなと思っていた。子供たちは、本好きだ。本当に好きで、いろんな遊びをしていても、読み聞かせの時間になると、あっという間に本の世界に入っていく。やはりそれが発達なんだろうなと思う。いろんなことを考えてしまう大人と違い、子供は、生まれれば本の世界にスポンと入っていけるので、そういう本の魅力も学校で伝えていけたらと考えていた。

根岸一成委員 中間案素案を拝見して、バランスよくいろんな事項が盛り込まれており、私どもも次期の計画段階にあるが、参考になる部分がたくさんあり、勉強させていただいた。

今後、デジタル化の流れというのは、図書館のみならずそういった方向に行くということは十分認識されるかと思うし、またここの中にもそういった部分が、電子図書館も含めて盛り込まれており、そこが一番ポイントかと思った。当館にも、宮城県図書館はやらないのかというご質問もだいぶある。今県内では白石市と仙台市の2館になるが、当館としては今のところは研究段階というような回答になっており、仙台市の先駆的な取組の情報をいただいて、当館としてもそういう段階に入れば、実施に向けてということで考えているところである。

やはり、紙資料を求める一定層の方とのバランス、そういったところも全てが電子化されればいいのかというと、実はそれだけではない部分もあり、また電子化されることによって開かれる部分もあるというところのバランスが非常に難しいところであるが、やはり必要な部分として、仙台市の取組はすばらしいなと思っていた。

併せて、先ほどもあった著作権法の改正について、当館としても対応を研究中である。デジタル送信という公衆送信ということで、これまで行われていなかったサービスを法改正に基づき行っていくという方向になっているので、この点も情報を共有しながら進められれば。令和5年ということで少しの時間しかないが、そういったところの対応についても当館としても準備しているところである。

障害者サービスも今後拡充ということで、ここに盛り込まれており、そういった方向での対応も本当にすばらしいなと思っている。

今後の当館としては、こちらの方向性1にもあるように、地域資料をどういうふう保存していくかということも大変重要な課題で、紙資料の場合は劣化があり、何もしなければなくなってしまうので、そういった意味ではデジタル化というのは非常に有効だが、大変お金のかかる事業である。しかしながら何もしないわけにもいかず、そういった意味では、地域資料の保存と継承という点、東日本大震災のアーカイブも含めて、当館としても今後力を入れていきたいと思っている。

堀多佳子委員 皆さんと同じように、この中間案素案、楽しく読ませていただいた。

電子書籍に興味を持ち入ってみたところ、すぐ読めるのと、結構予約がいっぱいあり、すごいなと思った。絵本も見てみたが、やはり絵本は紙媒体で子供たちに届けた

い。小さい子がスマホで絵本を見ている姿を想像すると、「紙の絵本のほうにも行ってみてくださいね」という一言が、電子書籍の欄にあってもいいのかなど。若いお母さんだと、出かけるよりはここで子供に見せたほうが良いと思う方もいると思うので、できれば紙のほうにもシフトしていけるような工夫があったらいいと思った。

そして、ヤングアダルトの書籍が電子書籍では予約が多いということなので、ツイッターをうまく利用して、よく本の感想とかが書いてあったりするように、若い人たちも交流できるようなツイッターの形なども作っていけるとさらにいいと思った。

仙台市図書館では「BOOK TREE」（子どもの本の案内の季刊紙）というのがあるが、子供たちに1枚ずつは無理でも、クラスや学年に1枚とか、学校に配布してうまく活用できないか。ここに電子書籍だとこんなものもあるよというのを入れたりしたら、結構子供たちが本を手取るきっかけにも活用できるかと思った。

事務局 「BOOK TREE」については、各学校にも配布はさせていただいているが、部数が少ないので、先生方への情報提供という形で終わっている。

滝川真智子委員 図書室に「BOOK TREE」を置いているところもある。

堀多佳子委員 もともと本を好きな子は図書室に行くので、教室でも回覧にしてもらえるようなことがあってもいいかなど。

事務局 ホームページでも「BOOK TREE」の紹介はしているので、そちらもまた併せて宣伝していければと思う。

議長 私も、小学校の先生に紹介したら、テーマごとに本がいろいろ紹介されているので、図書室の展示に使うのにとっても便利だったと大変好評だった。ホームページの「こどものページ」から「BOOK TREE」のPDFのところに入っていけるが、場所がなかなか分かりにくいので、もう少し見やすい位置にあると、もっと活用されるのかなどと思った。とってもすばらしい資料だと思う。

真壁直人委員 特に今回電子図書館が実現したということもすばらしい。学校の教育でもSDGsとSociety5.0というのは必須になってきていて、そこから考えてみると、学校図書館はやはり本への入り口になる。図書館に行く子というのは、何もしなくても図書が好きな子たちで、逆に、本を読まない子に本に触れさせるというのが私たちの役割なのだが、そうしたときに学校図書館というのが一番身近なところにある。

学校図書の蔵書数は生徒数に関わらずほぼ同じである。うちの学校は、生徒数が少ないが、14,500冊位蔵書数があり、大きい学校でも同じ位である。やはり電子図書というのは、これから注目されると思う。ICT化は今回のコロナ禍で教員のほうがまだついていないくらい早く進み、子供たちのほうが使いこなしている。教育委員会のイントラネットとかと連携しながら、電子図書にクローズドブックから自由にアクセスできる形にすれば、限られた中なので良いかと思った。

それから、70年過ぎたものであれば著作権がなくなるので、クラウド上にそういった名作を常駐させておけば、いつでも子供たちが、すぐアクセスして読むこともできる。そうすると、教材としてそれを授業で使うようなこともできるのかなど。そんな形でコラボしていきながら、市図書館と学校との関係を強めていけるかと思った。

中学校教育研究会で、市民図書館と泉図書館の行政教員に来てもらいリモートでやったが、各学校に必ずいる図書館担当がほぼ全員参加した。2人とも学校との連携について一生懸命いろんなところで伝えていただいているが、本を好きだ、本に接してみても面白かったというところから、その入り口を作ってあげられればと思っていた。

うちの学校は国語の教員が皆司書教諭で蔵書数も多く、さらに図書事務の方はアメリカの図書館専門の大学で学ばれたという方でとても充実している。一番本を読んだ子は1学期間で250冊も読み、そういう子供たちを育てていければと思った。やはり教員がやらなきゃならないというのは、1年生と3年生は読書数が多いが、2年生がすごく少ない。原因をたどったら、実は去年の1年生のときに、全然図書館を先生が使ってくれなかったということがあり、そういうことで利用数も変わってくる。色々な形で、子供たちの窓口を広げてあげればなと思った。

SDGsの場合、すでにやっているかと思うが、17のバッジの色に従ってディスプレイをしていき、「これはSDGsの2番目に関わりの深い本だよ」とかやっていると手に取りやすいかと思う。

また、図書館に深く関わると思ったのは、捨てられる本の多さである。毎年買った分捨てる。ところが、捨てる本できれいな本がいっぱいあって、何とかそれを廃棄本頒布会みたいなものをやれば捨てずに済むのかなと、司書と話をしていた。仙台市の葛岡にリサイクルセンターがあるが、本のコーナーがあって、読まなくなった本を持ち込み、いいなと思った本を持ち帰ることができる。ああいうのを各区の図書館でやれば捨ててしまうよりはいいのかなと思った。

議長　うちの大学でも、複本があって要らなくなった本は、古本市みたいにして棚に置いておいて、必要な学生に配布したりして有効活用している。

渡邊千恵子委員　素案については、仙台市図書館のこれまでの実績と、近年の社会状況の中で求められている姿、そして私たち委員の意見といったものが網羅されていた。非常にすばらしい内容だったと思う。読んでいるうちに、行間に込められている思いなども感じることができた。

その一方で、非常に業務が多岐にわたっていて、これを実施していくのは非常にたやすいことではないとも思った。

そういった中で、図書館の将来像を、近いところじゃなくて10年、20年先のことを少し考えてみると、行政と市民が協働してつくり上げる図書館といったことを模索していく必要もあると感じた。市民協働というのは、初期段階は非常に手間がかかるが、その段階を超えたところに非常にいい関係性、協働のスタイルが生まれてくるのではないかなと思う。そして、自分の利益や成長だけではなく、多世代やその地域社会の成長や貢献に関わる市民を図書館ベースで育成していくことができれば、非常にすばらしいことだと思う。

その土壌というのは、既に仙台市の図書館でも実践されていて、中高生の育成といったことがやられているが、一つの課題は、中高生でそういった素養であるとかいろんな経験をして、大学生や社会人になったときに途切れてしまうことじゃないかと

思っている。私たちのような現役世代と言われて働いている人間も少し関わりが薄い、そういったところが課題ではないかなと思う。これからワーク・ライフ・バランスがうまく進んでいったとすれば、中高生で養った、培ったものを途切れさせることなく関わりを持ちながら、自分だけでなくいろんな方とのつながりの中で、社会全体を良くしていこうというような関わりが持てるようになっていければいいと思った。

議 長 やはり、それぞれの立場で出席くださっている委員の皆様からいろいろご意見を頂戴して良かったと思う。

事 務 局 委員の皆様から、この中間案素案を本当にしっかり読んでいただいて、ありがたいお言葉をいろいろいただいた。今後、パブコメでもいろいろご意見を頂くと思うが、そうした過程を経た上で、もちろん計画を作って終わりということではなく、この計画に基づいてこれからどうしていくのかということが最も重要なことだと私どもは考えている。例えば広報をどうしていくのか、あるいはこれからの子供たちへ、オンラインの電子書籍も重要だが、一方で、紙の本の良さ、魅力も伝えていくことも重要ではないかと考えている。

また、先ほどお話があった10年先、20年先を見据えたときに、図書館だけでここに書いたこと全てがやれるとは考えておらず、そういった意味でも様々な主体と連携という言葉がたくさん書いてある。実際に今、ボランティアや様々な機関の皆様と連携しながら事業を進めているところである。例えば今年度の取組としては、普段図書館に来られない方々にも本に親しんでいただき、図書館を知っていただくには、私たちがむしろ出張していけばいいのではないかとこの考えの下に、企業のイベントに出席して本の貸出コーナーを作ることを試験的にやってみた。今回の計画でアウトリーチという言葉が出てくるが、やはり座して待っているだけでは駄目だなと。図書館から遠くて利用しにくい方、あるいは障害があり来館しにくい方、そういった方々にも図書館のサービスをお届けするには一体どうしたらいいのかということで、私たちが出向く、あるいは移動図書館車というハードをもっと活用したらいいのではないかとこのことも今回の計画で盛り込んでいる。今後の図書館を考えたときに、皆様との連携というのが非常に必要だというのは、今回もご意見を頂戴しながら、私どもが気付いていないことを教えていただいたというのが感想である。

議 長 いろいろご意見を頂戴したが、次期振興計画の中間案については、ご覧いただいた内容でご承認いただいたということによろしいか。

各 委 員 了承。

議 長 では、このような形でご承認いただいたということにしたい。

前回から数値的な成果目標を導入するという話題が出ていた。このあたりについては、事務局のほうでどのような考えをお持ちか。

事 務 局 他都市の図書館の事業計画を参考に拝見しても、掲げられている指標が様々ある。イメージとして、図書館の活動の成果を計画の理念にどれだけ近づいているかということができるだけシンプルに表現できるような指標、例えば利用状況に関するものなどを最終案に向けて選んでいきたいと考えている。

議 長 やはりサービスなので、満足度など質的なものも測れるようであればなお良いかと思う。今後事務局からまた提案があった際は委員の皆様の意見を頂戴したい。

パブリックコメントでもいろいろご意見を頂戴することと思うし、本日の協議会でのご意見等も踏まえてこれから取りまとめをさせていただくが、中身については私と事務局にご一任いただきたい。なお、最終案については、次回第5回の協議会で確認いただく予定となっている。

5 報告事項

(1) 指定管理者制度導入館の令和2年度管理運営状況について

(市民図書館副館長 報告)

資料2にもとづき報告

議 長 全てS評価と、素晴らしい。今後ともより充実したサービスを提供できるように、各館とも頑張っていたいただければと思う。

(2) 「せんだい電子図書館」の運用開始について

(市民図書館副館長 報告)

資料3にもとづき報告

議 長 電子書籍サービスについては、先ほどから随分話題にも上っていたが、この件について改めてご質問なりご意見なり委員の皆さんからございましたらお伺いしたい。

高橋由臣委員 サービス開始の資料3というのは、もう公開されてもいい資料になるか。

事務局 サイト自体はもう公開しているので問題ない。

高橋由臣委員 毎年勾当台公園で仙台市PTAフェスティバルというものをやっているが、このご時世なのでウェブ版で昨年切り替えて、今年も明日からスタートになる。学校関連とかの特集というところで、例えば子供食堂を運営している方を取材したり、児童館とかいろいろなその学校に関連する、子供たちが関わる施設の特集というサイトを設けているが、例えばリンクを張らせていただくということは可能か。

事務局 可能である。

議 長 ほか、委員の皆さんから何かあるか。

各委員 特になし。

6 その他

配付チラシの説明

次回協議会の案内

7 閉 会